



PHILHARMONIKER WIEN NAGOYA

フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋
第22回演奏会

RIMSKI-KORSAKOW:SCHEHERAZADE.
SYMPHONISCHE SUITE,OP.35 /
CAPRICCIO ESPAGNOL,OP.34,
J.WILLIAMS:AUSZÜGE AUS „STAR WARS“

リムスキー=コルサコフ
スペイン奇想曲 作品34

J.ウィリアムズ
組曲「スター・ウォーズ」より
「帝国のマーチ」「レイア姫のテーマ」「メイン・タイトル」

リムスキー=コルサコフ
交響組曲「シェエラザード」作品35

指揮 武藤 英明

客演コンサートマスター マティアス・ベークナー

2025 **7.12** (土) 開演 14:00
開場 13:15

東海市芸術劇場 大ホール

[名鉄太田川駅南口すぐ]

全席自由 1,000 円 未就学のお子様のご入場はご遠慮ください

前売りチケット ■ 芸文プレイガイド TEL:052-972-0430 **チケットぴあ** <https://pia.jp/> Pコード:294403

主催 ■ フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋

後援 ■ 愛知県教育委員会 名古屋市 名古屋市教育委員会 中日新聞社

お問合せ ■ PWN広報 TEL 080-4096-1842 Mail gruess_gott_pwn@yahoo.co.jp

最新情報は
楽団HPをご覧ください▶



フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋 第22回演奏会

ドイツ＝オーストリア系の曲を好んで採り上げる当団ですが、今回は異色とも思われる2人の曲をお送りします。まずは管弦楽法の大家R＝コルサコフ。その熟練の筆から色彩豊かな世界が描き出されますが、今回の2曲でとりわけ際立つのがヴァイオリン・ソロ。ウィーン・フィル(WPh)のかつての名コンマス＝ヘッツェル門下のベークナー氏の独奏が冴えわたります。そして映画音楽の大家J.ウィリアムズ。WPhとウィリアムズ?と思われるかもしれませんが、近年WPhに招聘され、大好評を博し話題となったところです。アラビアン・ナイトとスペースオペラ。過去と未来の2つの物語の壮大な世界を、当団でもお馴染みの名匠・武藤英明氏がどう描きだすか、乞うご期待!



指揮 武藤 英明 MUTO Hideaki

桐朋学園大学卒業。斎藤秀雄に指揮を学ぶ。1976年チェコのプラハに渡り、ズデネック・コシュラーに師事する。1986年プラハ放送交響楽団とサントリーホール・オープニングシリーズで日本デビュー。1990年、同放送交響楽団と「プラハの春」国際音楽祭に出演。2004年名古屋フィルハーモニー交響楽団と再度「プラハの春」国際音楽祭に出演。今までに指揮している主なオーケストラは、プラハ交響楽団 FOK、スロヴァキア・フィルハーモニー、プラハ放送交響楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、フランクフルト放送交響楽団、ロシア・フィルハーモニー交響楽団、ネザーランド・フィルハーモニー交響楽団、チューリッヒ交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー、国内では、札幌交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団等々。CD録音にチェコ・フィルハーモニー管弦楽団とのモーツァルト：交響曲第40番短調、第41番「ジュピター」他、ターリッヒ室内オーケストラとのモーツァルト：交響曲第38番「プラハ」、ドヴォルザーク：チェコ組曲、ヴァイオリンのための「ロマンス」、弦楽セレナーデ 長調、ヤナーチェク：弦楽のための組曲、ロンドン・フィルハーモニーと「行進曲」-世界に冠たる日本のマーチ-等々、著書に「スメタナ弦楽四重奏団が語るクワルテットのすべて」(音楽之友社)がある。



客演コンサートマスター マティアス・ベークナー Mathias Boegner

ドイツ/スイス人ヴァイオリニスト。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の名コンサートマスター故ゲルハルト・ヘッツェルと故ヴォルフガング・シュナイダーハンの両氏に師事、強い影響を受ける。そのほか故ドロシー・ディレイ、故アダ・シュトゥック（アンネ・ゾフィー・ムターの師）に学ぶ。指揮者フランツ・ヴェルザー＝メストに招かれ、スイスのヴィンタートゥール市立管弦楽団のコンサートマスターとしてキャリアをスタート。上海放送交響楽団およびスイス・ロマンド管弦楽団のコンサートマスターを歴任する。チューリッヒ音楽院、国立台南芸術大学、中国音楽院、タイ国立シーナカリンウィロート大学等において教鞭をとった。ソリストとしてニューヨーク(カーネギー・ホール)、パリ、ハバナ、東京等で演奏。プリギッチ・クロンイェーガー(フルート)とのバッハ「シャコンヌ」等CD、パガニーニ「カプリース」ライブDVDなどがある。中国青島や成都、米国チャールストン、ウィーンBTHVNの各国際コンクールで審査員をつとめる。約20年にわたり、恩師ヘッツェル教授を偲ぶ日本のアマチュア団体に招聘されることは特別な名誉であり、友情の証である。

フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋(PWN)は、ウィーン音楽・ウィーン式管楽器をこよなく愛する東海地区のアマチュア奏者を中心に2011年に創設されたオーケストラです。管・打楽器は全員が、世界最高峰ともされるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団(WPh)で使用されている独特のスタイルの楽器～ウィンナ・オーボエ、ウィンナ・ホルン、ウィーン・アカデミー式クラリネット、ウィンナ・ティンパニなど～を使用し、その美しい響きを追求しているという点で他に類を見ない、日本で唯一の楽団と言えるでしょう。また、楽器のみならず、WPhの団員やOBの演奏家を指揮者やソリストとして招聘し、演奏スタイルや精神面まで含め、その薫陶も受けることにより更なる高みを目指しており、10代から80代、関東や関西からも幅広くメンバーが集まっています。取り上げる曲目は古典派から後期ロマン派の大編成の曲まで幅広く取り上げるほか、国立歌劇場管弦楽団を母体とするWPh同様、別名称で歌劇の公演にも取り組むなど、多彩な活動を行っていることも特徴です。



管弦楽 フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋
Philharmoniker Wien Nagoya

第23回演奏会のお知らせ 2025年10月25日(土)

- ◆指揮：武藤英明 ◆チェロ独奏：ベルンハルト・直樹・ヘーデンボルグ(ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団チェロ奏者)
- ◆曲目：ドヴォルザーク：チェロ協奏曲、交響曲第9番「新世界より」